

第2章4節

千葉県の社会の移りかわり：人口と土地利用の変遷

北澤 哲弥

千葉県生物多様性センター

1. はじめに

本節では、本田（2010）に基づき、生態系サービスの变化を引き起こす背景となる人口および土地利用といった社会指標を取り上げ、千葉県における人間社会の変遷について整理した。

2. 人口要因

1) 人口の増加

千葉県の人口は、1940年代以前は100万人台が続いていたが、終戦後には200万人を超えた。その後、1960年代後半から1990年まで急激に増加し、2002年には600万人を越えたものの、現在は頭打ちになっている（図1）。

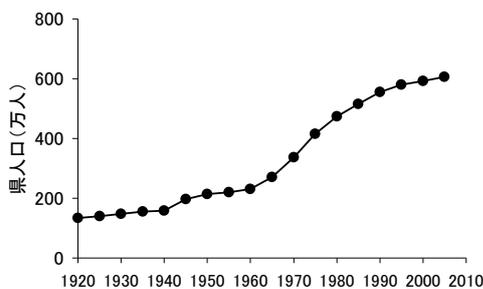


図1 千葉県人口の推移（資料：国勢調査）

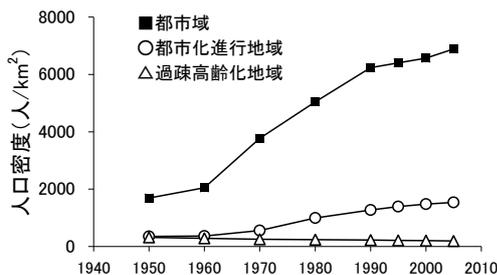


図2 千葉県の社会的地域区分別人口密度の推移（資料：国勢調査）

県人口の増加は主に都市域での人口増加によって引き起こされている（図2）。都市域はもともと人口密度が高く増加傾向であったが、1960年から1990年にかけて、さらに急激に上昇した。都市化進行地域と過疎高齢化地域は、1950年には人口密度が同程度だったが、その後、都市化進行地域では人口が増えたのに対し、過疎高齢化地域では人口が減り続けている。

2) 高齢化の進行

人口が増加する一方、高齢者・若年者の比率の変遷を見ると、若年者（14歳以下）の比率は戦後から減少の一途をたどり、2000年頃からは高齢者率の比率が上回っている（図3）。高齢者率は各地域において増加しつつあるが、とくに過疎高齢化地域においてその傾向が顕著である（図4）。過疎高齢化地域では、1970年代以降、高齢化が急激に進み、2005年現在、約33%に達している。一方、都市域と都市化進行地域では2005年現在の高齢者率は15%程度ではあるものの、1990年以降、増加速度が速まっている。

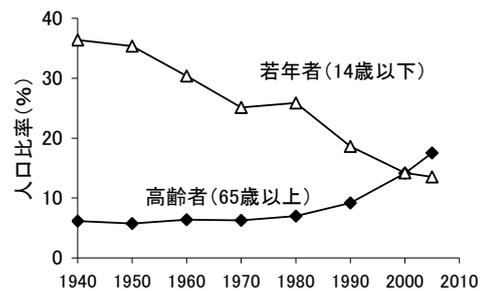


図3 千葉県における年齢別人口比率の推移（資料：国勢調査）

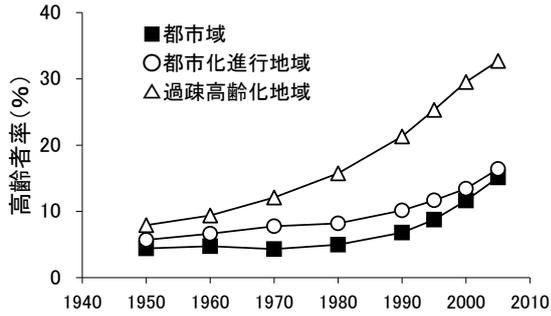


図4 千葉県の社会的地域区分別高齢者率の推移 (資料：国勢調査)

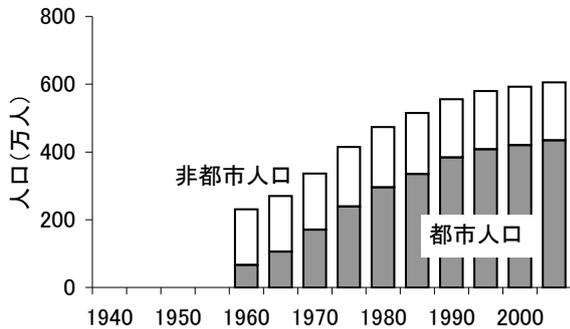


図5 千葉県における都市人口と非都市人口の推移 (資料：国勢調査)

3) 都市への人口集中

ここでは、人口集中地区を都市と考えて、その人口変遷をたどる。千葉県における都市人口は大きく増加し、1960年の66万人から2005年の434万人へと6.6倍に増加し、都市への人口集中が強まっている(図5)。1970年には都市人口が非都市人口を上回ることになった。一方、非都市人口は大きな変化を見せず、1980年の180万人をピークに漸減している。

4) 三次産業への傾倒

次に千葉県の産業構造の変遷をみるため、一次産業(農業、林業、漁業)、二次産業(鉱業、建設業、製造業)、三次産業(運輸・通信業、金融・保険業、サービス業など)、それぞれの産業就業者数をもとにピラミッド図を作成した(図6)。大正期(1920年)以降、三次産業就業者数が増加していったが、1960年と1970年の構成を比較すると、構成が変わり、三角形から逆三角形になっている。以降、一次産業の割合

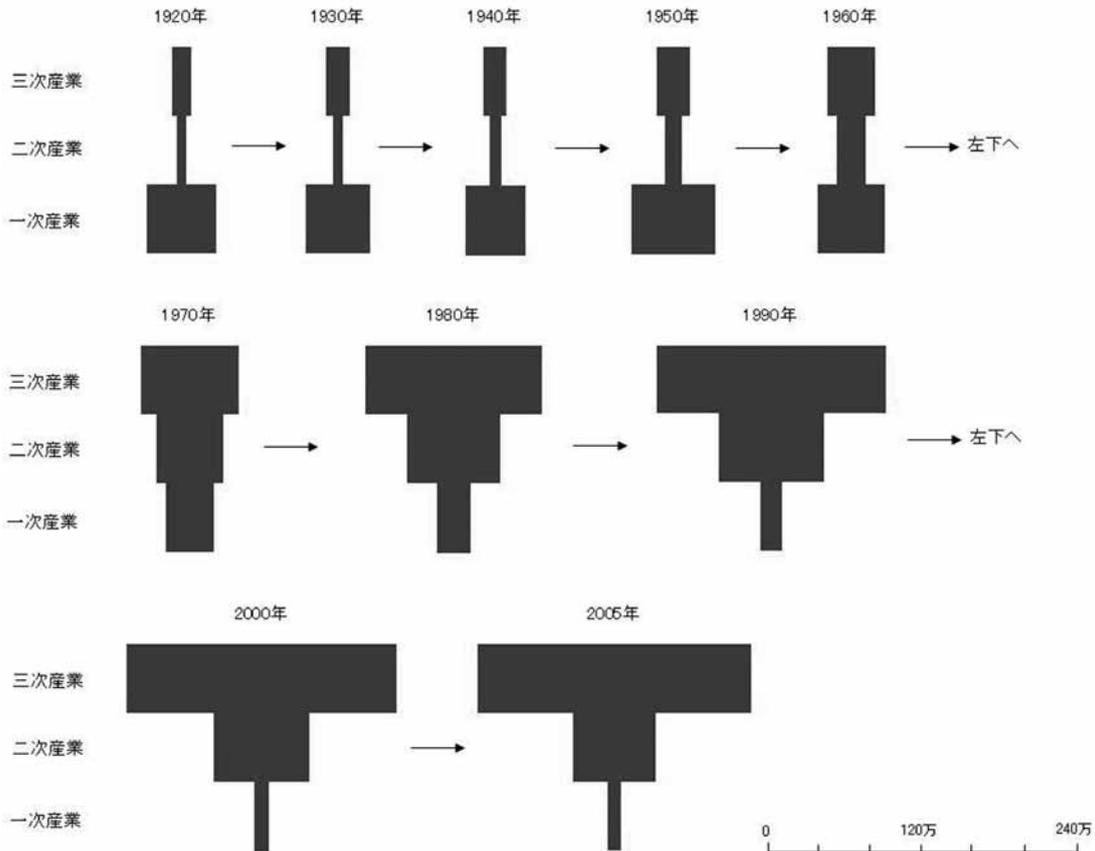


図6 千葉県における産業別人口構造の変遷 (資料：国勢調査, 単位：人) (本田,2010)

が小さくなり、2000年の構成でわかるように、一次産業就業者数は非常に小さいものであることがわかる。さらに、この変遷図からは、少ない一次産業就業者で多くの二次産業・三次産業就業者を支えている状態が、年々強くなっている事がうかがえる。一次産業が図6のように細くなっている状態は、食料生産のみならず、自然管理という面においても担い手が十分にいる状態ではなく、持続可能な社会の状態とは言い難い。

次に、一次・二次・三次産業の就業者数を地域別に整理した。一次産業就業者数はいずれの地域でも減少し、1960年と比較して2005年には20%程度まで落ち込んでいる(図7)。二次産業(図8)と三次産業(図9)の就業者数は、都市域と都市化進行地域において大きく増加し、2005年には1960年と比較して10倍以上となったものが多い。ただし、1990年からは増加傾向に歯止めがかかり、二次産業は減少、三次産業は頭打ちになっている。一方、過

疎高齢化地域では、二次、三次いずれの就業者数もわずかの増加にとどまっている。

5) 人口の将来予測

千葉県の総人口は、2010年をピークに減少に転じることが予想されている(図10)。年代別には、生産年齢人口と年少人口が減少するのに対して老年人口は増加し、高齢者率が上昇する。

人口減少は過疎高齢化地域において著しいと予想される(図11)。過疎高齢化地域では1950年代から人口が減っており、今後も減少が続き、2035年には2005年時点と比較して68%にまで減少することが予想される。一方、これまで人口が増加してきた都市域や都市化進行地域においても、都市域で2015年、都市化進行地域で2020年をピークとして、人口が減少に転じるとされる。

人口の減少と並行して、いずれの地域においても高齢者率が大きく増加する。都市域と都市

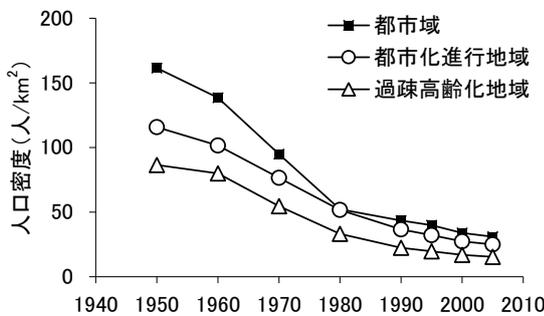


図7 千葉県の社会的地域区分別一次産業就業者数密度の推移(資料:国勢調査)

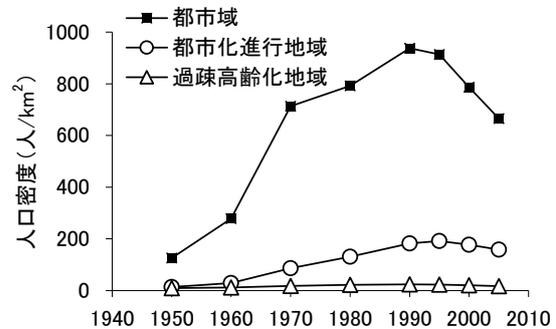


図9 千葉県の社会的地域区分別三次産業就業者数密度の推移(資料:国勢調査)

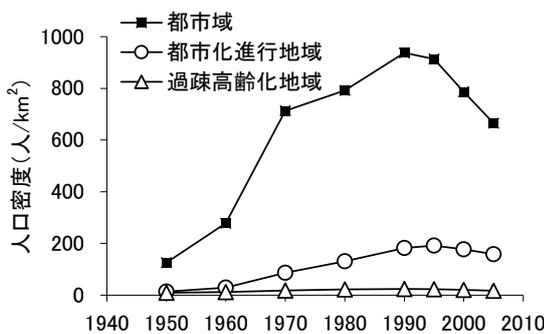


図8 千葉県の社会的地域区分別二次産業就業者数密度の推移(資料:国勢調査)

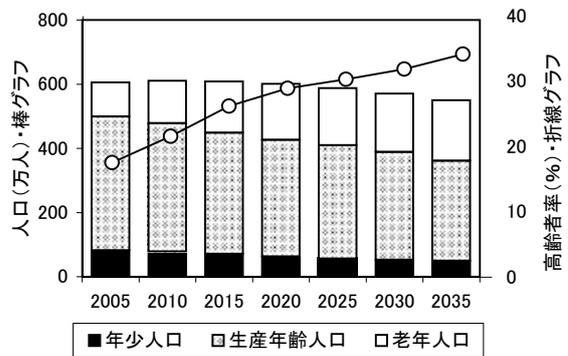


図10 千葉県の年齢別人口と高齢者率の推定(本田, 2010より改変)

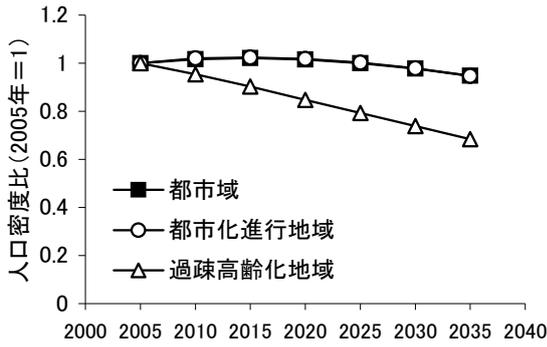


図 11 千葉県の社会的地域区分別将来人口の推移予測 (本田, 2010 より改変)

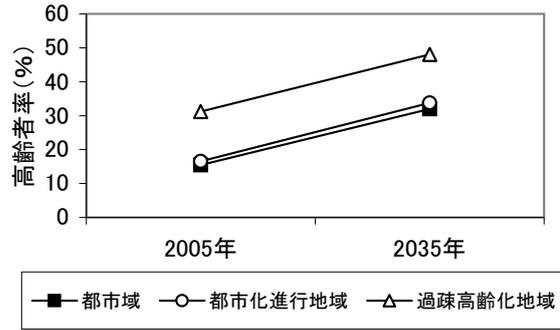


図 12 千葉県の社会的地域区分別高齢者率の推移予測 (本田, 2010 より改変)

化進行地域では 2005 年現在, 15%程度だった高齢者率がおよそ 2 倍の 30%台に増加し, 過疎高齢化地域では高齢者率が 48%に達することが予想されている。

2. 土地利用：市街化の進行

県内の土地利用状況の推移をみると, 宅地のみが大きく増加し, 2005 年時点で 1960 年と比較して 3.6 倍となった。その一方, 他の土地利用は徐々に減少しており, 特に田畑の減少が目立っている (図 13)。

宅地の増加は, 都市域と都市化進行地域において顕著に増えている傾向が見られ, 過疎高齢化地域ではそれほど大きく減少はしてこなかったことがわかる (図 14)。これに対して, 自然

的な土地利用はいずれの地域においても減少している。山林の面積は, 過疎高齢化地域ではほぼ横ばいであるのに対し, 都市域と都市化進行地域では減少している (図 15)。農地についてみると, 田の面積は都市域において著しく減少している一方, 都市化進行地域や過疎高齢化地域では減少の幅は小さかった (図 16)。畑については, 都市域における減少が目立つものの, 都市化進行地域でも減少が進んでいる (図 17)。一方, 過疎高齢化地域では田の減少幅は比較的小さかった。

3. 社会構造の変遷にかかる要点整理

1) 県の社会構造の変遷

本県の将来社会を考えるうえで, 留意すべき

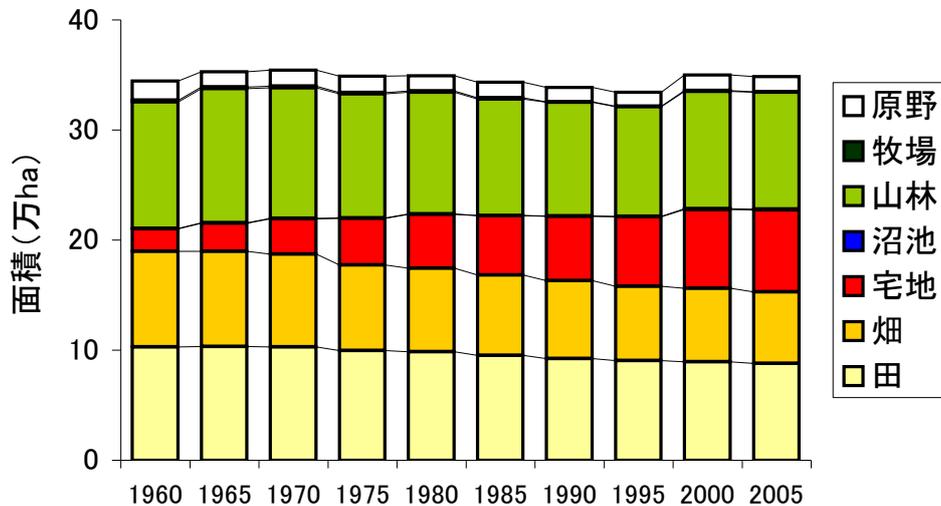


図 13 千葉県における土地利用面積の変遷 (資料：千葉県統計年鑑)

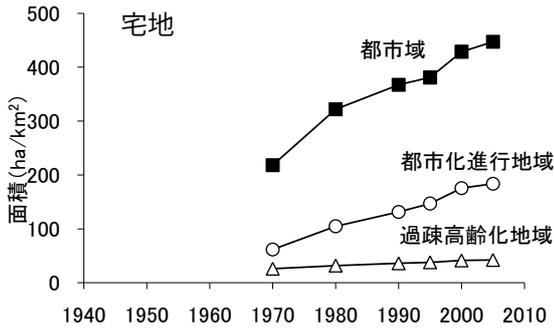


図 14 千葉県の社会的地域区分別宅地面積の推移 (資料：千葉県統計年鑑)

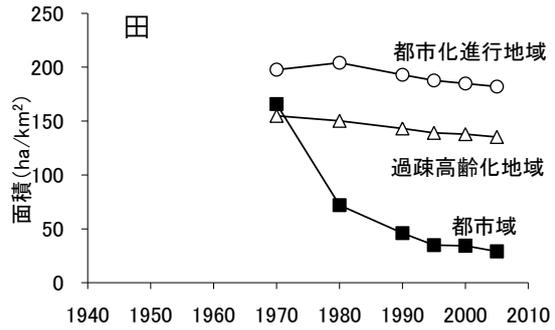


図 16 千葉県の社会的地域区分別田面積の推移 (資料：千葉県統計年鑑)

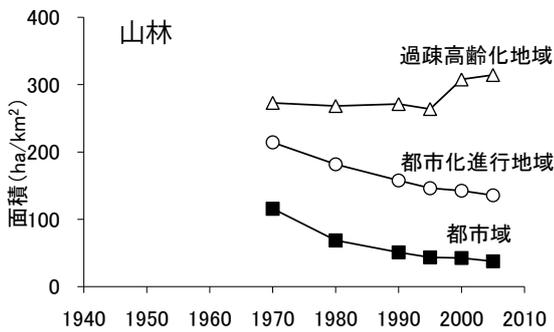


図 15 千葉県の社会的地域区分別山林面積の推移 (資料：千葉県統計年鑑)

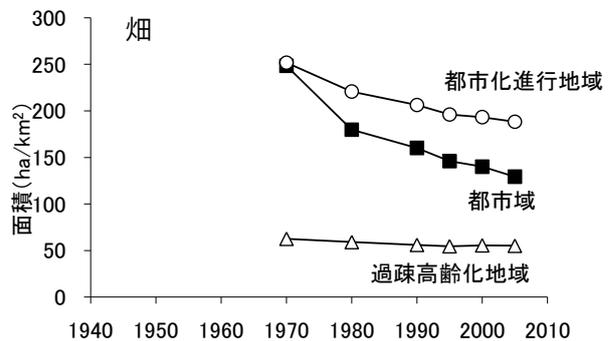


図 17 千葉県の社会的地域区分別畑面積の推移 (資料：千葉県統計年鑑)

これまでの社会構造の変遷、および社会的地域区分別の推移の特徴を以下にまとめた。

- 人口は 1970 年代から 1980 年代に大きく増加した。これは都市域における人口の増加によるものである。
- 若年者人口が減少し、近年では高齢者人口が上回っている。特に過疎高齢化地域でその傾向が顕著であるが、都市域、都市化進行地域においても近年、増加速度が速まっている。
- 都市人口が大きく増加し、1970 年に非都市人口を上回った。一方、非都市人口はほとんど増加せず、近年は減少傾向にある。
- 産業別人口は一次産業が減少する一方、三次産業に就業者が集中してきた。二次産業は 1990 年をピークに減少しつつある。
- 千葉県の推定人口は 2010 年をピークにゆるやかに減少する。同時に、高齢者率が上昇し、2035 年には 2005 年の約 2 倍となる。特に過疎高齢化地域は人口の約半数が高齢者にな

ると予想される。

- 宅地面積が大きく増加した一方、山林や農地が減少した。宅地面積は都市域と都市化進行地域で増加したのに対し、過疎高齢化地域では大きく変動しなかった。

2) 社会的地域区分別にみた変遷の特徴

○都市域

都市化の進行が最も著しい地域であるため、各指標で最も大きな変動が見られた。人口は 1960 年代から大きく増加し、現在は頭打ち傾向にある。高齢者率は 2005 年現在で 15% と低いものの、増加速度は増しつつある。一次産業就業者数は大きく減少する一方、二次産業は 1990 年まで増加してその後は減少、三次産業は 1990 年まで増加して頭打ちになりつつある。将来的に 2015 年をピークとして人口が減少に転じるが、減少速度は緩やかである。また同時に高齢者率の増加が見込まれる。人口増加と並行して宅地面積が大

大きく増加する一方、森林や農地といった自然的土地利用の面積が減少した。

○ 都市化進行地域

この地域の社会指標は都市域よりもやや緩やかに推移してきた。1960年代から人口が大きく増加し、現在は頭打ち傾向にある。高齢者率は2005年現在で16%と低いものの、増加速度は増しつつある。一次産業就業者数は減少する一方、二次産業は1990年まで増加してその後は減少、三次産業は1990年まで増加して頭打ちになりつつある。将来人口は2020年をピークに減少に転じるものの、減少速度は緩やかだと予想される。また高齢者率も増加することが予想される。土地利用では、宅地面積が増加し、森林や農地面積が減少するものの、その程度は都市域と比較して緩やかである。

○ 過疎高齢化地域

この地域の社会指標は都市域や都市化進行地

域とは異なる変動を示すケースが多く見られた。人口は1950年代より減少が続いており、高齢化の進行も著しい。産業就業者数は一次産業では減少する一方、二次産業と三次産業は増加傾向にあるものの、都市域や都市化進行地域と比較して増加の程度は低い。将来的にも急速な人口減少が進み、2035年には2005年時点と比較して68%にまで減少することが予想される。また高齢者率も大きく上昇するとされる。土地利用は、宅地面積が増加し、森林や農地面積が減少するものの、その程度は都市域や都市化進行地域と比較してさらに緩やかである。

4. 引用文献

本田裕子. 2010. 千葉県における人間社会の人口動態. 千葉県生物多様性センター研究報告2: 58-64.

著者：北澤哲弥 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 千葉県立中央博物館内 千葉県環境生活部自然保護課生物多様性戦略推進室生物多様性センター t.ktzw2@pref.chiba.lg.jp
 “Transition of population and land-use in Chiba prefecture” Tetsuya Kitazawa, Chiba Biodiversity Center, 955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan. E-mail: t.ktzw2@pref.chiba.lg.jp